

2017/9/21 大学教育再生加速プログラム(**AP**)採択事業シンポジウム
～ 国際バカロレア修了生の国内大学進学と今後の展望について ～

岡山大学創立五十周年記念館

横浜市立大学における 国際バカロレア修了生の 受け入れについて

出光 直樹 (横浜市立大学)

idemitsu@yokohama-cu.ac.jp

<http://www.idemitsu.info>

横浜市立大学の沿革と概要

旧制学制期(前史)

- 1871(明治4)年:仮病院
- 1882(明治15)年:横浜商法学校
→ 中等教育部分は、新制の市立横浜商業高校に
- 1928(昭和3)年:横浜市立横浜商業専門学校(旧制)
- 1944(昭和19)年:横浜市立医学専門学校(旧制)
- 1947(昭和22)年:横浜医科大学(旧制)

新制学制での発足

- 1949(昭和24)年:横浜市立大学商学部
- 1952(昭和27)年:医学部、文理学部
- 1995(平成7)年:国際文化学部・理学部(文理学部の改組)、看護短期大学部

近年の動向

- 2005年度より法人化(理事長・学長分離型)。
- 商学部・国際文化学部・理学部を改組し、国際総合科学部に統合。医学部には従前からの医学科とともに、看護短期大学部を改組した看護学科が加わる。
- 必修の全学英语科目「Practical English (PE)」を開講し、TOEFL-ITP500(TOEIC600、英検準1級も可)を単位認定要件とし、この科目の修得が3年次進級(国際総合科学部) or卒業要件(医学部)要件に。
 - 当初は20%程度が留年して大きく問題化するも、その後は10%程度に落ち着く。
- 2014年度 国際総合科学部で国際バカロレア入試を導入
- 2018年度 データサイエンス学部を新設(IB入試も実施)。

国際総合科学部設置後の特別入試と 国際バカロレア入試導入の流れ

2005
年度入試

帰国生
11月

留学生
2月

2010
年度入試

帰国生
留学生

※11月の
同一日程
共通問題

2012年度入試
社会人 追加
※10月上旬に繰上

2014年度入試
国際バカロレア 追加

2015年度入試
科学オリンピック 追加

横浜市立大学の

国際バカロレア入試の特徴

- すでに実施していた、「海外帰国生・外国人留学生・社会人入試」〈学系毎に同一の筆記試験と面接で判定〉に、もう一つの応募カテゴリーとして導入。
 - 以前より「海外帰国生入試」には、IBDPを有する者が毎年数名含まれていたが、これにより日本国内でのDP取得者も対象に。
- IBの資格を有すれば、スコアの差は直接的には影響せず、基本的に筆記試験と面接で決まる、日本的な一発勝負タイプ。
 - 横浜市大のポジショニング（高得点IB生は、まず入学しない）と、入試実施体制を考えた設計。

選抜方法

- 筆記試験(90分)100点、
面接(個人10分程度)100点
および英語資格の加点10点 の合計210点を
審査基準として合否判定。
- 2015年度まで、文系の3学系の小論文問題は、英
文の課題文による問題と和文の課題文による問題
の2題で構成。理学系は、英語(必須)と理科(物・
化・生から2科目選択)で構成。
- 2016年度入試より筆記試験での英文出題を廃止し
て全て日本語での出題にするとともに、
より高い英語資格を持つ者には10点を加点。

合否判定

- 学系毎に、他の選抜区分と並べて判定表を作成し、筆記試験担当者と面接担当者とで合議して判定案を決定。
- 例年、最終的な入学者は他区分を含めて若干名の範疇におさまるので、人数ありきではなく、入学者としてふさわしいかどうかの絶対的な感覚で判定。
- IB区分の受験者は、(予想通り!)海外帰国生などと比べて優秀。

国際総合科学部 国際バカロレア入試 実施結果

内＝国内でのDP取得者 外＝国外でのDP取得者

	2014			2015			2016			2017		
	内	外	計	内	外	計	内	外	計	内	外	計
志願者	2	3	5	7	4	11	5	4	9	4	6	10
受験者	2	1	3	5	3	8	5	2	7	4	4	8
合格者	2	1	3	4	2	6	4	2	6	1	4	5
入学者	1	0	1	2	1	3	3	0	3	1	0	1
国際教養学系	1		1	2		2	1		1			
国際都市学系												
経営科学系					1	1	1		1			
理学系							1		1	1		1

高校名	志願	受験	合格	入学
加藤学園暁秀高等学校	9	8		
A I C J 高等学校	2	2		
ぐんま国際アカデミー高等部	2	2		
立命館宇治高等学校	1	1		
玉川学園高等部	3	2		
名古屋国際高等学校	1	1		

在学者インタビュー ～プロフィール～

- 7名の国内でのIBDP取得入学者のうち、5名にインタビュー。大きく2パターンの背景。
 - (1) 12年一貫イマージョン校育ち。
 - 日本国内への進学志向が強い。
 - 初等部のクラスメートには、中等教育段階から通常の課程に移る者も。
 - (2) 小～中学校段階での海外教育経験者。
 - 国外の大学も検討し、実際に受験し合格した者も。

在学者インタビュー

～入試対策～

- 11月の最終試験の準備が大変なので、その前に行われる横浜市大や他の日本の大学の入試対策には、それほど手が回らない。
- 横浜市大の筆記問題に対しては、過去問を解いて慣れる。
- 理学系では、日本語の用語が分からないので、普通の日本の教科書で勉強。
 - 日本語で上手く答えられない設問を英語で解答した者も（←面接で指摘されるも合格）

【番外編】 各校で評判の良い、UBC

在学者インタビュー ～横浜市大の印象～

- 特に周りから著しく浮いたり、不適応を起こしている者は居ない。それなりに多様な学生集団に溶け込んでいる。
- 「多文化交流ゼミ」(英語によるディスカッション型の授業・普通の学生には相当厳しい)に対する、好印象。
- 普通の学生(非IB出身者)に対する印象；
 - 大人数の講義から、教員の意図を読み取る事が優れている。
 - 成績へのこだわりがなく、単位がとれれば良い感じ。
 - 徹底的に反論しあう議論に慣れていない。

在学者インタビュー

～大学卒業後の進路について～

- 物流系に内定。履歴書にはIB取得やコースに在籍したことを明記しなかったが、高校名を見てIBかどうか質問してきた企業があった。
- 日系のメーカー志望。金融よりも製造業こそ国際的。チーム作業を大切にしたい。
- 教員採用試験合格志望。母校へのこだわりは無く、普通の公立校の経験も大切と思う。いずれは大学院留学も。
- バイオ系の研究者志望。医師でなくとも、国際貢献・途上国支援を実現する方法として。
- 何となく大学院進学志望。

今後の方向性

- 国際総合科学部・データサイエンス学部は、当面このスタイルか？
 - DP校が増え、志願者～入学者が増えてきた際の定員化。
 - DP取得に至らない部分的履修者を取り込むかどうか。
- 医学部(医学科・看護学科)での導入に向けて。
 - 相乗りできる既存の筆記試験は無いので、実施するとすれば、IBDPの履修科目や点数評価を基軸とした岡山大学方式か。
 - 面接については既存の推薦入試と相乗り可能。
 - 去る9月13日、医学部医学科にて、岡山大学の田原先生をお招きしてFD講演会を実施。